



とよとみひでよし

豊臣秀吉になる前は、どんな名前だったの



幼名は日吉丸、元服後の実名は秀吉で、苗字は木下から羽柴・平・藤原・豊臣と変わったんだよ。

昔の武士の名前には、子どもときの幼名と、元服（昔の成人式）後の成人名があります。成人名には、本人が自分で名乗っても、他人がよぶことは遠慮したほうがよい実名と、よんでも失礼にならない通称（仮名・俗名ともいう）があります。通称は、太郎・次郎・三郎のように、兄弟の順を示したものや、蔵之助・左衛門・右近・内記のように、役職名をつけたものが多いようです。

秀吉の名前のうつり変わり

伝説では、秀吉の幼名は「日吉丸」とされていますが、貧しい農民が、武士や貴族のように、子どもに「丸」という立派な名前をつけたかどうか、疑問しいといわれています。昔の文書に、信長の家臣として初めて出てくる名前は、木下藤吉郎秀吉で、「木下」は苗字、「藤吉郎」は通称、「秀吉」は実名です。実名の「秀吉」は、その後も変わりません。

秀吉の苗字のうつり変わり

秀吉の苗字は、地位が高くなるにつれて、変わりました。

木下：伝説では、木下家に生まれたことになっていますが、苗字をもつほどの身分の家だったかどうか、疑問しいといわれています。

羽柴（1573年から）：先輩の丹羽長秀・柴田勝家の苗字からとりました。

平（1582年から）：明智光秀をたおした後、「平秀吉」または「平秀吉朝臣」の名前で、いろいろな官位を受けました。

藤原（1585年から）：関白になるとき、藤原氏の形だけの養子になりました。

豊臣（1586年から）：学者を集めて調査させ、その中から選んだ苗字です。